

# 農大だより十九号

発行：平成 28 年  
3 月 11 日  
栃木県農業大学校  
〒 321-3233  
宇都宮市上籠谷町  
1145-1  
Tel：028-667-0711



## 魅力ある農大を目指して

副校長兼教務部長

小池 則義

本校では、教育研修機能の充実・強化や積極的な情報発信など、「魅力ある農大」を目指した新たな取組を開始していますので、その一部を紹介いたします。

まず、県の試験研究機関と連携し、新品種・新技術を積極的に導入しています。いちご「スカイベリ」に「ゆめみどり」、なしの「根圏制御栽培」、花きハウスでの「地中熱や電気自動車エネルギー」利用実証、牛群改良を目指した「高能力牛」導入など、学生、研修生が意欲的に学べる環境づくりに努めています。また、三月には全農とちぎから最先端の高軒高トマトハウスを寄贈いただき、促成長期栽培にも取り組みます。次に、民間企業等との連携強化です。農業機械メーカーや全農と

ちぎとの連携では、「新型トラクタ、田植機操作実習会」、「排水対策機械操作実習会」を本校ほ場で開催した外、「無人ヘリ飛行競技会」の見学や「農機安全対策学習会」などを開催。食の専門家を養成する三友学園との連携では、授業や実習、農大祭、学園祭の相互参加など、双方の機能を有効活用した教育や学生交流を実施しています。また、カインズホーム宇都宮平出店内の農産物直売所における農大農産物販売、農業生産法人を招いた雇用就業相談会の開催など、多くの関係者と連携し、本校だけでは学ぶことの出来ない教育や情報発信に取り組んでいます。今後、関係機関、団体、企業等多くの皆様の御協力をいただきながら連携し、本校職員が一丸となって「魅力ある農大」を目指してチャレンジして参ります。どうぞ皆様の御支援をよろしくお願いいたします。

## 創立110周年記念講演会を開催

— 平出同窓会副会長が講演 —

農大は、明治三十八年に「下延生農業補習学校」が創設されてから、本年度で百十周年を迎えました。



これを記念して平成二十七年十二月七日に、本校創立百十周年記念講演会を開催しました。当日は、鈴木同窓会長、篠原後援会長をはじめ両会のご来賓の皆様の出席をいただき、百六十名が参加して盛大に開催されました。講師は、宇都宮市平出町でユリ生産を行う「有限会社エフ

・エフ・ヒライデ」の平出孝司会長にお願いしました。平出会長は本校の卒業生で、現在、同窓会副会長でもあり、栃木県農業士として活躍されています。

「フラワービジネス」と題した講演では、生産施設、経営手法の紹介や、学生に対してこれからの農業者の心構えなどを強く指南されました。学生からも「作物としてユリを選んだ理由は?」、「重視している農業技術は?」など積極的に質問が出され、平出会長に、多くのことを教えて頂いた講演会となりました。



# 卒業論文発表会（本科2年生）

## －農大での学習の集大成－

平成二十七年度卒業論文発表会が、平成二十八年一月二十九日（金）に開催され、本科各学科専攻の代表者七名が研究成果の発表を行いました。

発表に先立ち、安納校長から「二年生は、農大二年間の集大成。研究成果をどのように自分の経営や地域農業の発展に活かしているかが大切。」と挨拶がありました。

各発表者のプレゼンテーションはわかりやすく伝える工夫が凝らされ、一年生もこれから取り組む卒論に活かせる発表でした。

最優秀賞には、卒業後の自分のイチゴ経営に直結する実践的な研究をした園芸経営学科野菜専攻・野瀧遥加さんの『イチゴにおける作型の違いが生育・収量に及ぼす影響』が選ばれました。

学科専攻	氏名	タイトル
農業経営学科	大島香織	伝統野菜「幸岡ネギ」の普及を目指した調査と品質向上
農業経営学科	石崎義和	水稲における発酵肥料と基肥一発肥料による収量・品質の比較
園芸経営学科 野菜専攻	野瀧遥加	イチゴにおける作型の違いが生育・収量に及ぼす影響
園芸経営学科 野菜専攻	本田直人	トマト栽培における厳寒期の摘葉・暖候期の側枝利用による葉数管理が生育・収量・品質に及ぼす影響
園芸経営学科 花き専攻	渡辺修平	シクラメン栽培におけるトレハロースとクエン酸が生育・品質に及ぼす影響
園芸経営学科 果樹専攻	池羽高明	リンゴ「ふじ」の結果枝基部の切りのかしによる小枝確保の検証
畜産経営学科	左原優多	ハエ忌避剤散布による搾乳効率向上の検討



2年生の進路状況

学科・専攻	卒業予定者数	就職予定					就職予定		進学その他	
		即就農	研修後就農	雇用就農	うち内定	うち内定				
農業経営	19	6	2	1	3	3	13	10	0	
園芸・野菜	25	9	1	6	2	2	16	13	0	
園芸・花き	10	1	0	0	1	1	7	6	2	
園芸・果樹	2	1	0	0	1	0	1	1	0	
畜産経営	7	6	0	1	5	5	1	1	0	
計	63	23	3	8	12	11	38	31	2	
構成比	100%	36.5%					60.3%		3.2%	

注)平成28年2月19日現在  
就職内定率は81.6%(雇用就農を含めると84.0%)

### 二十七年度卒業生の進路

卒業予定学生六十三名の進路は、就職予定者二十三名、就職予定者三十八名、進学予定者が二名となっています。

また、就職予定者のうち十三名が雇用就農、就職内定者のうち、農業関連企業及び農協を含めた農業関連団体が十八名となっています。進学予定者は、弘前大学、恵泉女学園大学の三年への編入学です。

# 先進的経営体実習（本科1年生） －経営能力の向上と人間性の涵養をめざして－

実践教育の一環として、実際の現場で学ぶ、先進的経営体実習が行われました。

期間は八月二十六日から九月二十九日における二十二日間を基本に行われました。

実習は、各地域の農業振興事務所に受入先の選定を依頼し、それぞれの希望に沿った、地域の先進農家や農業法人等において行われました。

農大に入学して五か月、基礎的な実習を経た一年生、五十三名が参加しました。

先進的な経営体における栽培技術や飼養管理技術の習得に加え、農業経営者として必要な経営理念や農業に対する思い等、多くを学び貴重な体験となりました。

改めて、受入先並びに関係機関の皆様にご礼申し上げます。

## ○農業経営学科

【大田原市耕種農家】



## ○園芸経営学科（野菜専攻）

【高根沢町トマト農家】



## ○園芸経営学科（花き専攻）

【宇都宮市鉢物農家】



## ○園芸経営学科（果樹専攻）

【真岡市梨農家】



## ○畜産経営学科

【小山市肉用牛農家】



農大祭で展示された実習先から頂いた教訓等の色紙



# 創立110周年記念第39回農大祭

## ― 刮目せよ！堪能せよ！農大の恵みを―

秋の恒例行事、農大祭が十一月二十一、二十二日開催されました。今年には農業大学校創立百年の節目の年。農大祭実行委員会渡辺会長は「いつもと違う農大祭」、「思い出に残る農大祭」を念頭に実行委員会をけん引し、素晴らしいお祭を開催しました。

福田知事をはじめ多くの来賓からの激励の言葉や、農業高校2校からの演舞演奏で花を添えていただきました。学生からは軽音楽サークル、Dance ☆愛好会のステージ発表やホルスタイン共進会愛好会のカウショウが目を引きました。実行委員会も「一一〇周年」の文字入りリンゴや一〇gお米計量ゲーム、ゆるキャラダブル出演（とちまるくん&みるひじ）などでいつも以上の農大祭を演出しました。

この二日間のために、春から始め準備や運営は苦労や疲労を伴うものでしたが、今では心地よい達成感に変化した次の農大祭に引き継がれていくことでしょう。学生、職員、そして外部協力団体のみなさま、お疲れ様でした！



### 農大産農産物直売

― 消費者とのふれあい ―

平成二十三年に締結した「栃木県とイオン株式会社との包括連携協定」に基づき、平成二十七年九月十五日にイオン栃木店に出店し、消費者とのふれあいを通じた学生のコミュニケーション能力や販売力の向上を図りました。

当日は、二年生3名が参加し、梨、ぶどう、なす、かぼちゃ等の販売の他、学校紹介を行いました。消費者からは、どのように栽培しているのか等の質問が寄せられましたが、学生が的確に対応しました。



また、仲卸業者をおしたホームセンターでの農大産農産物の継続的な販売を行い、今後は店舗での学生の販売体験も計画しています。

# キャンパスライフ

(平成27年7月～平成28年2月)

## 来年度の学生 自治会役員決定

七月十日に自治会役員選挙が行われました。

次期会長には四名、次期副会長には三名の立候補があり、次のとおり新役員が決まりました。

○会長

農業経営学科

増淵 力弥

○副会長

農業経営学科

黒崎 大夢

園芸経営学科果樹専攻

八木澤 巧

## 秋季校内スポーツ 大会&収穫祭

去る十月二十九日に秋季校内スポーツ大会が開催されました。当日は爽やかな秋晴れの中、学生たちは各々の競技種目に汗を流しました。

種目はバスケットボール、卓球、バドミントン、フットサル、綱引き、クロスカントリリーが行われましたが、綱引きとクロ

スカントリリーには職員チームも参加して、学生と共にスポーツを通して親睦を深めることができました。

また、当日、毎年恒例の「収穫祭」も行われ、農大産の米や野菜などの収穫物を用いて、豚汁や弁当を作り、昼食として頂きました。収穫の喜びを仲間と共に分ち合うことで、学生にとって大変有意義な一日になりました。



## 新たな優良教材の導入

平成二十七年十一月二十六日に、畜産酪農研究センター芳賀分場から、資質に優れた黒毛和種の妊娠牛二頭が導入されました。今後、肉用牛の繁殖や肥育の教材として、活用していきます。

## 成績優秀学生 & 優良提案を表彰

(一) 学業優秀者校長表彰

本校では、毎年、学業・人物ともに優秀で、他の模範となる学生を表彰しています。平成二十七年の受賞者は次の通りです。

農業経営学科二年 大島香織

園芸経営学科二年 野瀬遙加

園芸経営学科二年 渡辺修平

畜産経営学科二年 齋藤愛望

また、受賞者のうち特に優秀かつ学校発展に寄与した功績で、全国農業大学校協議会会長賞及び農業大学校同窓会全国連盟会長賞を、渡辺修平君が受賞しました。

(二) 学生提案優秀者校長表彰

農大初の試みとして、実習や農場管理に関する学生提案を募集したところ、五十四名から作業性や学習効果の向上、農場当番の効率化など八十七件の提案があり、次のとおり優秀者を表彰しました。

○最優秀賞

畜産経営学科二年 田澤美里

(牛の適正管理に向けた農場当番のシフト体制に関する提案)

○優秀賞

農業経営学科二年 手塚脩平

畜産経営学科一年 細谷絵梨花

## 関東ブロック プロジェクト発表会

平成二十七年年度関東ブロック農業大学校等業績発表会が、静岡県掛川市で一月二十一日から二十二日に開催され、本校から三名が参加しました。

プロジェクト発表の部は、農業経営学科二年大島香織さんと、畜産経営学科二年左原優多くんが、これまで熱心に取り組んできた試験研究の成果を発表しました。また、意見発表の部では、園芸経営学科花き専攻一年久保佑介くんが、「就農をするために大切なこと」と題し、自分の考えを熱く発表しました。



# 研 修 部 門 の 紹 介

## 「とちぎ 農業未来塾」

四月に開講した「とちぎ農業未来塾」は一〇七名でスタートしました。各種作物の栽培の基礎やそれぞれの専門の品目についての栽培技術等を学びました。農大祭では、ねぎやはくさい、いちご、梨など研修生が栽培した農産物を販売し、来場者から好評を得ました。

また、平成二十八年度研修生の募集が締め切られ、一〇三名の方から申し込みがありました。



## 食と農の 起業家養成研修

十一月から開講した「食と農の起業家養成研修」は、四回の講座合計で六十八名（延べ）で実施されました。

農村起業活動に係る知識・心構え、米粉を活用した食品加工の基礎技術や商品設計、食品衛生関係の法規などを学びました。



## とちぎ農業 ビジネススクール

七月から開講した「とちぎ農業ビジネススクール」は、県内各地から選ばれた十八名の研修生でスタートしました。

経営戦略やマーケティング、雇用管理と人材育成、財務管理などを学んだほか、農業経営者としての人間力、発想力などについて演習を交えて学びました。研修のまとめとして、各自の「経営改革プラン」を策定しました。今後はこのプランを実現しつつ、各地域の経営モデルとなり、本県農業のけん引役となるものと期待されます。



## 平成二十八年度 農業機械研修計画

☆農業機械士養成研修（前期）

- ① 九月二十七日～十月十三日
- ② 十月二十七日～十一月十七日
- ③ 二月八日～二月二十三日

定員は①・②は各二十五名、③は十五名程度です。研修期間は十日間で農耕車限定大特免許も取得できます。

★農業機械士養成研修（後期）

- ① 十一月三十～十二月八日
- ② 十二月十四日～十二月二十二日
- ③ 一月十八日～一月二十六日

定員は①・②・③各二十名です。研修期間は六日間で農耕車限定けん引免許を取得できます。

研修の申込みは四月一日から行いますが、電話等で空き状況を確認の上、研修受講申込書に記入し農業大学校 農業機械研修担当宛（〒321-1323 宇都宮市上籠谷町一四五一）送付して下さい。

申込みは各農業振興事務所や農協等に置いてある農業機械研修計画の受講申込書を利用するか、農業大学のホームページ（栃農大で検索）から申込み書を印刷して下さい。